

腎不全

エベレストの頂上に立とう。間違いなく低酸素血症になる。呼吸不全か？

いいえ、呼吸器に不具合はまったくない。不具合どころか呼吸器は目いっぱい全開活動している。どれほど踏ん張っても低酸素血症なのは低酸素空気を吸わされているせいで、麓に下りればたちどころに低酸素血症は正常になる。もし呼吸器が故障していれば酸素いっぱいの麓に来ても低酸素血症は良くなるらない。

腎臓に十分な血液が環流していない状態、たとえば脱水や心不全鬱血で有効循環血液量が減少しているとき、高窒素血症となる。腎不全か？

いいえ、腎臓は能力十分。腎臓は生活廃棄物を廃棄しようと待機しているが、腎臓に廃棄物が運ばれてこない。十分量の血液が回ってくれば、腎臓はその能力を発揮してたちどころに高窒素血症は改善する。かかる腎前性の要因による高窒素血症を、腎臓悪し“腎不全”とは冤罪である。

“腎不全”は腎臓自体に不具合・故障・疾患がある生理学的機能状態である。この不具合が修復しなければ、補液で十分な血液が環流しても高窒素血症は治らない。ヘタすると透析必要かも知れない。正しい概念理解は診断、そして治療に直結する。このように決定的に異なるのだから、異なる用語で区別されねばならない。

“腎不全”は腎臓そのものの異常による事態。腎臓自身は健全である、循環血液量減少による一時的な高窒素血症は“腎前性高窒素血症”とする。後者を腎不全と呼んではいけない。

慢性腎不全というだろう。だが慢性腎前性腎不全は見たことがない。慢性腎不全の“腎不全”はつねに腎臓の故障である。慢性腎不全と急性腎不全の同じ用語“腎不全”が違う内容をはらんでいるようなコトバのでたらめは許容されるべきではない。

腎臓は自身の生存のためにも血液を必要としているので、減ってしまった血液量のために自身が故障してしまうこともある。これが腎前性“腎不全”である。この時の“腎前性”は腎臓を故障させた etiology を指し、循環血液量減少である。それによって起こった傷害は、組織学的にはたとえば急性尿細管壊死（ATN）である。